

# TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

船舶入出港関連行政手続の一元的な処理を対象とした情報システムの構築と連携に関する研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-06-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飯田, 純也 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/2125">https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/2125</a>

## 〔課程博士〕 (博士論文審査及び最終試験の結果要旨)

学生氏名：飯田 純也

博士論文題目：船舶入出港関連行政手続の一元的な処理を対象とした情報システムの構築と連携に関する研究

### 博士論文審査：

学生から提出された博士論文について、公開発表会が2月8日に行われ、審査委員と学生の間で質疑応答が繰り返しなされ、博士論文としての質を十分に確保しているとの結論に至った。特に、第六章については各審査委員から高い評価を得た。

本研究は、船舶入出港関連行政手続を一元的に処理する情報システムの Maritime Single Window (MSW) に着目し、構築にあたっての論点・留意点の明示、他システムとの連携の際に検討が必要となる情報表現規約の国際標準化の動向把握と分析、MSW の国際間データ連携に向けた実装方法の検討を行った。構築にあたっての論点・留意点について、MSW 未導入国に対してわが国が実施した ASEAN 諸国への構築支援における事例検証を行い、MSW の構築を機に船舶入出港関連行政手続そのものの簡素化に努めるべきであり、人材教育面の支援、予算と工期には十分な余裕を持つなど、実践的観点からの論点・留意点を明らかにした。一方関連システム設置済国を対象とした MSW 構築に関して、MSW の試行運用を開始した英国における事例検証を行い、省庁間の横断的連携による MSW 構築体制の確立が必要であること、MSW とその他行政手続システムとの連携について、省庁間の既得権益などを考慮し一体方式かシステム間連携方式かの検討を行うことが必要であることが明らかになった。そして、IMO の簡素化委員会における情報表現規約の議論経緯の整理・分析を行った上で、議論の結果として発行された FAL 便覧（第1～3版）の特徴の分析と検証を行い、FAL 便覧への対応策を検討した結果、各国の MSW を拙速に第3版 FAL 便覧に対応させる必要性は低いことが明らかになった。最後に、MSW の国際間データ連携に向けた実装方法について、各国が構築した MSW 間において将来的に国際間データ連携を行う場合における適切なネットワークアーキテクチャの検討を行い、現在の IMO における MSW への取組状況などを踏まえると、中央集権型よりも分散型ネットワークアーキテクチャの方が優位であることを示した。

これらの成果は、MSW の構築・連携の実装に関する国際的な現状を整理した上で、現実的な対応方策を学術的に提案した点ですぐれており、今後の新技術への対応などの課題があるものの、今後、ロジスティクス工学分野のみならず、国際物流における情報化の進展にも大きく貢献する優れた研究といえる。

以上の内容から、学生から提出された博士論文は、国内外の研究の水準に照らし、各研究分野における学術的意義、新規性、独創性及び応用的価値を有しており、博士の学位に値することを審査委員一同確認した。

### 最終試験の結果要旨：

最終試験は2月8日に行われた。審査委員一同出席の下、学生に対して、博士論文の内容について最終確認のための質疑応答を行い、その内容は十分であった。一方、専門知識については公開発表会当日の質疑応答時や予備審査時でのディスカッションを含め十分であると審査委員一同確認した。

学術論文は「国際海上コンテナ貨物の港湾に関する国際間での手続情報共有のための情報システムの現状と課題」（飯田純也，渡部大輔他，沿岸域学会誌，31(1)，21-32，2018年。）を始めとして、すでに6本掲載済みで、その他に1本、現在、日本物流学会にて審査中であることを確認した。また、国際会議において英語で発表しており、外国語の学力については問題ないと判断した。

合同セミナーについて、規定の学習時間および出席回数を満たしていることを確認した。

大学院海洋科学技術研究科が指定した研究者倫理教育を修了していることを確認した。

以上から、学生について博士論文審査、最終試験とも合格と判定した。